



49 (水口町和野) 森井 寿朱子さん

趣味でつながる交流は宝物

サントピア水口勤労青少年ホームを拠点に活動するヒップホップダンスサークル「Curious♣️A」を昨年12月に立ち上げられた森井寿朱子さん。

「音楽にあわせて体を動かすことが最高に気持ちよく、音楽が流れてくると自然に体が動きます。いろんな振り付けを考え、それを自分たちで表現することが楽しいです。」とダンスの魅力語る森井さんは、8年前にダンスを間近で見た瞬間、その格好良さに惹かれ、それ以来ダンスに関するいろんな活動をされています。先月行われたサントピアミュージックフェスタでは日頃の活動の成果を発揮、華麗なダンスを披露されました。

これからも今のペースで楽しみながら、地域のイベントなどでみんなに見てもらえたら、という森井さんが、ダンスと同じぐらい楽しみ、大切にされているものが多くの交流です。

体を動かすのが好き、話をするのが好き、という森井さんは、ダンスのほかにも、サントピア水口で行われている英会話、エアロビクスなどの教室、編み物サークルなどにも入っておられます。

「いろんなことに興味を持って参加すると、いろんな方と出会えます。そこでいろんな話をするのがとても楽しいです。」と話す森井さん。平日、仕事が終わってからほぼ毎日勤労青少年ホームに通う週もあり、忙しく、有意義な毎日を送っておられます。

「趣味を通じて交流できるここは素晴らしい場所です。こうした場所がもっと増え、いろんな世代の交流が進めばと思います。出会いは私にとって宝物、かけがえのないものです。これからも楽しい交流を続けていければと思います。そのために自分自身をもっと磨いていきたいです。」と話す森井さん。ますますのご活躍に期待です。



ミュージックフェスタで熱演する森井さん(右)



紫香楽宮を守り、継承するために

紫香楽宮講演会・自然学習会

「くらしの中の紫香楽宮」をテーマにした講演会と自然観察会を行い、多くの地域の方や歴史愛好家の方たちが参加、改めて紫香楽宮の価値を確認しました。

この事業は全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて行われたもの。2月27日に黄瀬交流館で行われた講演会では、岐阜大学准教授の出村嘉史さんから、遺跡を巡る散策コースの整備や計画に、地域が主体となって取り組むことが、環境にやさしい地域づくりにつながるとの提案がありました。

3月6日の自然学習会では、春の訪れを告げる植物を観察、遺跡と美しい自然環境が、かけがえのない財産であることを認識しました。



▲自然観察指導員から説明を聞く参加者の皆さん

また、史跡紫香楽宮から飯道山にかけての散策ルートに説明板を設置、散策マップを刊行し実施した、探訪ウォークも大好評でした。

サントピアミュージックフェスタ

さまざまなジャンルの音楽サークルやダンスサークルが出演する「サントピアミュージックフェスタ」が3月6日、サントピア水口共同福祉施設で行われました。

この日は、サントピア水口勤労青少年ホームで練習に励むバンドを中心に11のグループが出演、ロック、吹奏楽、アカペラ、ギターアンサンブル、ダンスなど、多彩なステージが展開されました。

熱く激しいステージや、美しい歌声、音色の数々に、会場からは声援や拍手、拍手が鳴り止まず、出演者と観客が一体となり音楽の素晴らしさを体感することができました。



▲練習の成果を披露するバンド

激しいビートと美しい音色が会場包む



元気なまちかど

忍者の里への思い語る

人気アニメ「忍たま乱太郎」の原作者 尼子騷兵衛さんが2月25日、同作品の映画公開を前に市役所を訪問、中嶋市長と忍者についての思いを語り合いました。

ちよっとドジな少年忍者の成長をおもしろおかしく描いた同作品、18年に渡ってテレビ放送され、子どもたちだけでなく大人にも大人気のアニメです。

忍者の姿やまちを描く参考にするため甲賀市を何回も訪れたことがあるという尼子さんは、会談で「このまちは私にとっては先生のようなもの、昔の風情が残り歴史好きの人にはたまらないまち」と魅力を語りました。

また、中嶋市長からは、「暗いイメージが多い忍者の中にあつて、尼子さんの描く忍者は明るくて楽しいもの、このイメージをぜひまちづくりに結びつけたい。」と忍者とまちづくりへの思いを述べました。

忍たま乱太郎原作者 尼子さんが市役所を訪問

▼忍者の魅力について語る尼子さんと中嶋市長



まなび・たいけんフェスタ 2011 inかふか

かふか生涯学習館で3月6日、「まなび・たいけんフェスタ2011 inかふか」が開催されました。

同館では、生涯学習を目的に、さまざまな分野の団体、サークル活動が行われています。この日は、団体、サークルの皆さんにより、体験や展示コーナー、ステージ発表、販売コーナーが設けられ、多くの人でにぎわいました。

体験コーナーでは、地元の木材を使っての「マイお箸」作りや、オリジナルフォトフレーム、押し花でのしおり作りなど、いろんな体験が行われ、子どもも大人も夢中になって作りました。

各団体、サークルの活動の成果が発表されたこの日、会場を訪れた人は、学び、体験を通じてたくさん楽しめ、味わうことができたようです。



▲オリジナルフレームとあいさつファイルを作る子ども

見て、作って、食べて、楽しんで

多彩な力作並ぶ

甲賀市美術展覧会



▲個性豊かな作品が並ぶ会場

第6回甲賀市美術展覧会が2月26日から3月6日まで、あいこが市民ホールと碧水ホールで開催されました。

立体・書・平面・工芸・写真の五部門に244点の応募があり、審査により入選した240作品が展示されました。日頃の創作活動の成果を発表する多彩な作品が並び、来場した人は個性豊かな多くの力作を感じながら鑑賞しました。

各部門の甲賀市長賞受賞者は次の皆さんです。(敬称略)

- 立体・渡辺 耕造「KIZUNA」
- 書・山中 清藍「張喬詩」
- 平面・森川 瀨 津子「その日も、そしてその次の日も」
- 工芸・福澤 和子「藤の実」
- 写真・加賀井 正男「造形模様」

また、2月27日には、立体部門ワークショップ「自然の素材で作ろう！」が行われ、小学生が立体部門の実行委員の指導で、陶芸用の粘土を使って動物を作りました。